

マスターデータマネジメントソリューション

■概要

MDM (Master Data Management : マスターデータマネジメント) とは、企業活動においてデータを企業資産と見なし、積極的に管理することでデータの品質向上や蓄積・活用の促進を行い、最終的には企業価値向上を目指すものです。

IT 化が進むと同時に、グローバル化や企業統合・連携が進んでいくビジネス環境において、企業が管理すべきデータの種類や範囲、ボリュームが増加しており、データマネジメント強化の必要性が高まっています。

■データマネジメントで解決する問題の例

▼マネジメント上の問題

- ・ DWH を構築したが、見たいと思う情報を見ることが出来ないことが多々ある。
- ・ BI ツールを導入したが、似たような項目がたくさんあって、どれを選んで分析してよいかわからない。
- ・ 法規制への対応のためのレポートなどにおいて、情報が間違っていることが散見される。

▼業務上の問題

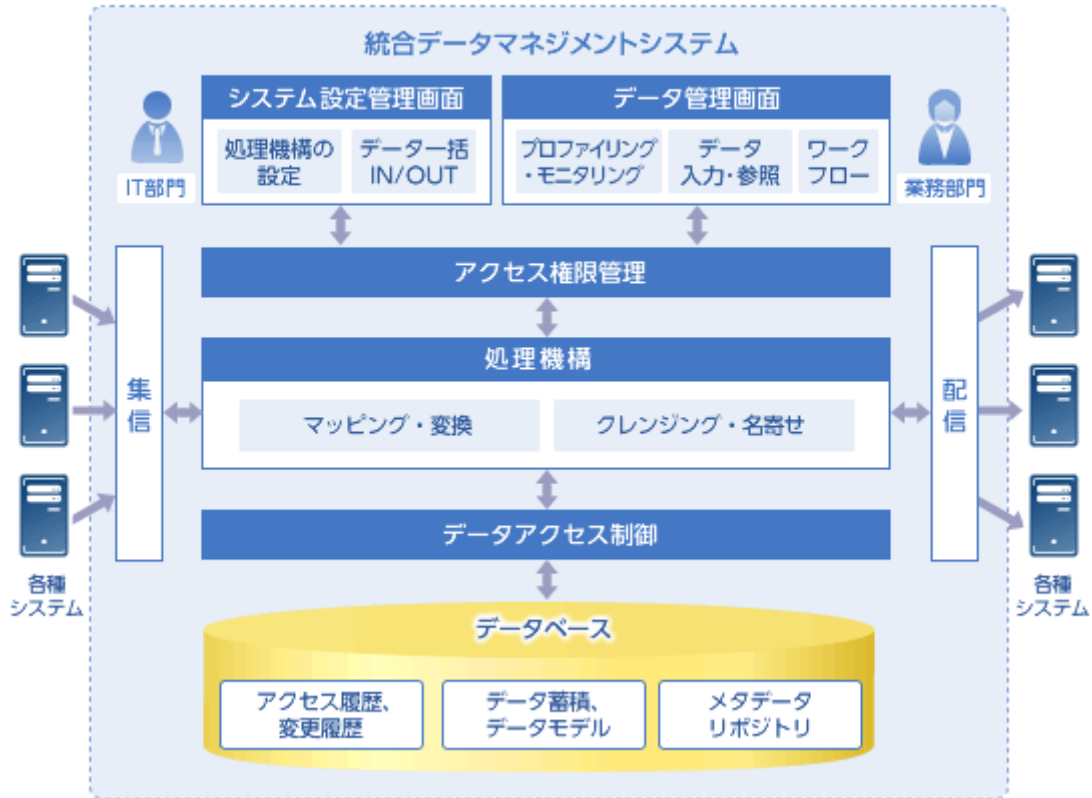
- ・ 顧客に対して複数部署で行っている活動の連携がしづらく、本来提供したい一貫したサービスが提供できていないことがある。
- ・ 商品マスターの登録が重複だらけで、欠品や過剰入荷・生産などが生じている。
- ・ 複数システムを人手で辿っていくことでしかトレーサビリティを確保できない。もしくは人手でも辿ることが困難。
- ・ 登録されているデータが信頼できないため、大量の問い合わせ業務が発生している。
- ・ マスター登録業務の負荷が高い。マスター登録に時間がかかり業務スピードに影響が出ている。

▼IT 運営上の問題

- ・ システムを構築するたびに、マスターデータ管理の機能やシステム連携の機能を構築している。それが積み重なってシステム連携が複雑化している。
- ・ 品質の悪いデータが連携されてくるためにシステム停止などのトラブルがよく起きている。
- ・ ユーザーからデータ抽出の依頼が多発し、その対応の業務負荷が高くなっている。

■統合データマネジメントシステムの概要

統合データマネジメントシステムの機能イメージ



マスターデータを一元的に管理する「統合データマネジメントシステム」を構築することで、データ品質の維持・向上、IT 運営の負担軽減を通じて、各種問題を解決します。

■実現において検討すべき事項

MDM の実現には、大きく 5 つのポイントを検討する必要があります。

① データマネジメント導入の目的

データマネジメントの導入には、目的設定が必要です。どのような課題を優先的に解決したかにより、導入スコープ、導入ステップが大きく変わってきます。新日鉄ソリューションズではデータマネジメントの導入目的を設定する段階から支援させていただきます。

② 導入スコープ、導入ステップ

データマネジメント導入の目的に照らし合わせて、導入スコープ、導入ステップを検討します。ビッグバン的な導入はリスクが高いため、スモールスタートで段階的に範囲を拡げてい

くことが取るべきアプローチとなります。

③ システムアーキテクチャー、データモデル、コード体系

企業全体のシステム配置および MDM 導入ステップを考慮した上でのマスター管理システムのアーキテクチャーの検討、また現状抱えている様々な問題を解決し、将来に亘っての柔軟性を確保するためのデータモデル、コード体系の検討が重要になってきます。

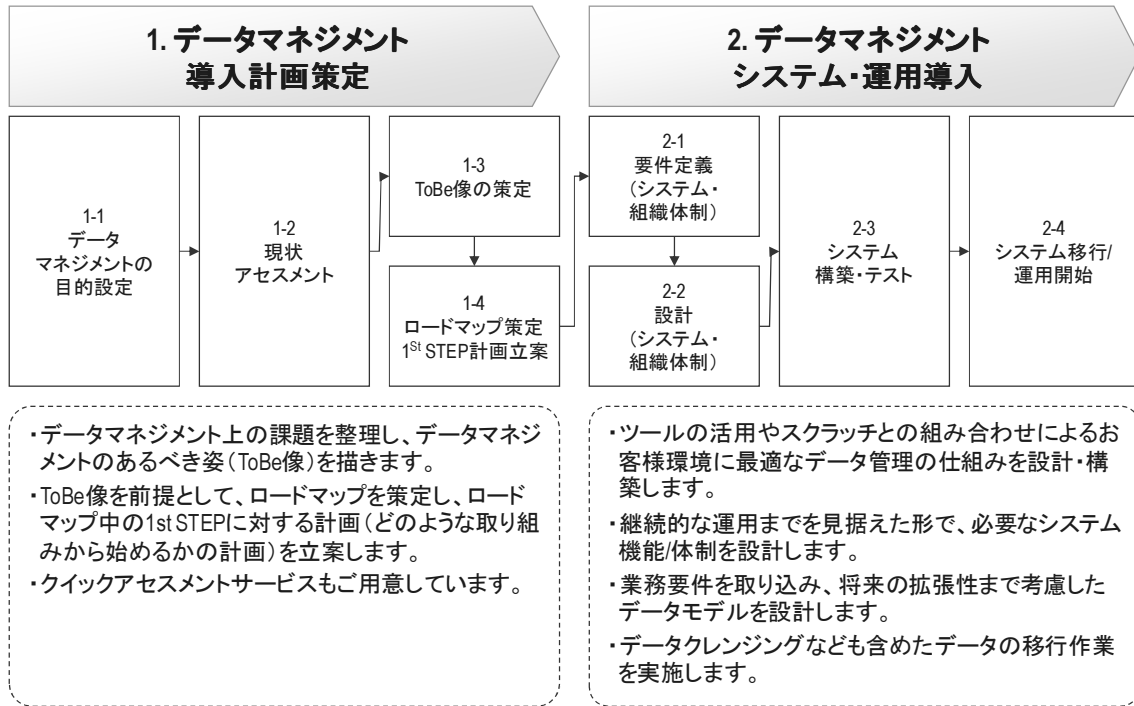
④ ツールの活用方法

MDM に関するツールが、各ベンダーから提供されています。それぞれの特徴がありますので、データマネジメントの目的達成に適合するツールを選択もしくはスクラッチ開発との組み合わせを検討する必要があります。新日鉄ソリューションズでは中立的 SI の立場から、貴社にとって最適なツールの選定をお手伝いいたします。

⑤ データマネジメントに関わる組織・役割

データの品質を維持・向上させていくためには、システム稼働後の運用が重要になってきます。データスチュワードのような役割に設定など、組織・役割の明確化、再設計を実施することがポイントとなります。

■新日鉄ソリューションズの提供するサービス



データマネジメント検討の進め方

新日鉄ソリューションズは、システムインテグレーターとして、多数の大規模な情報系・基幹系 IT システム構築におけるマスターデータ管理の導入を支援してきました。その経験・知識を活用し MDM の実現にあたって、導入計画の策定コンサルティングからシステム構築、運用支援までのトータルサービスを提供いたします。